

2018/11

動きだす 信濃リニア

リニア関連 中川の県道土砂崩落 原因究明と工事中止求める

大鹿の住民ら声明発表

リニア中央新幹線建設工事に反対する下伊那郡大鹿村などの住民でつくる「大鹿の十年先を変える会」（前島久美代表）は10日、JR東海がリ



中川村での土砂崩落を受けて工事の中止を訴える（左から）宗像氏と前島氏 10日、飯田市

ニア関連工事を進める上伊那郡中川村の県道松川インター大鹿線で昨年12月に起きた土砂崩落に関し声明を発表、崩落の原因究明とリニア本体工事の即時中止を求めた。同会によると、声明はリニア沿線や山岳関係などの全国53団体が賛同団体となっている。

崩落は、リニアの工事用車両が通ることになる道路トンネルの掘削箇所近くで発生。事業者のJR東海は発破などによる振動が原因とみられると認め、詳細な調査を続けている。

この日、飯田市で記者会見した同会事務局の宗像充氏（42）は、崩落を引き起こしたJRが原因検証の主体となっているのを疑問視し、第三者



の調査委員会が担うべきだと主張。詳細な原因究明が終わらない段階で、大鹿村内のリニアトンネル工事を続行するのにも懸念があると訴えた。中川村内で工事中の道路ト

ンネルは開通後、県道とする予定。同会は声明発表に合わせ、工事の一部費用を支出している県に対し質問状を提出し、県の説明責任なども問うた。宗像氏は会見で「（崩落で）村民が受ける必要のない被害が生まれている。JRも県も責任の取り方を明確にしてほしい」と述べた。

ずか。実質賃金は上がらず、非正規雇用も多い」と指摘。「今、賃上げがなければ消費増税を前に景気が腰折れする」と述べた。来賓の阿部知事は、検討中の次期「県総合5か年計画」

を紹介し、「県民が能力を最大限発揮でき、互いに支え合う社会づくりに向け、協力を頂きたい」などと述べた。希望の党、民進党の県選出国会議員も出席した。